

【第3号議案(報告事項)】

2025年度事業計画書

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

2050年に向けた長期ビジョン・ロードマップの具現化を目標に各常設委員会を中心に活動し、また、学会としての研究事業を推進するとともに生産技術関連についてより具体的な企画も検討し、学界および産業界にも有効な情報共有・展開することで将来の学会発展に向けた事業計画を進めていく。そのため、本部の理事会および常設委員会、各支部の活動をベースに、対面による議論を中心にWEBも活用し、会長・副会長、役員と関係委員との意見交換を活発化させ、会員の満足度を高める事業を計画することで、少子高齢化社会にあっても、会員増を目指した活動を進めていく。研究部会では、脱炭素化社会に向けた軽金属材料のありべき姿を提案するテーマも取り入れ活動する。企画委員会では、各常設委員会で設定した長期ビジョン・ロードマップを見据え将来に向けた取り組みを協議し、具現化を目指すとともに時代に合わせた活動の見直し計画を推進する。また、軽金属のものづくり技術の重要性を取り入れた活動を計画し、生産技術者にも学会の新たな魅力を提示することで、学会参加勧誘を推進する。従来から重きを置いてきた産学連携では、基礎研究とものづくりの課題を連携するフレームワークの構築も進める。国際交流事業では、2026年度のALMA2026に向け、従来の開催方法とは異なり、会員と国際委員の交流ができるフォーラムの開催を講演大会セッション内に設定することで国際交流を深める活動を計画する。また、2025年9月にはタイにある軽金属製造メーカの技術者を中心として軽金属材料基礎技術講座「タイセミナー2025」を開催するなど、海外技術者・研究者と交流することで、国際連携強化を継続し、本会のプレゼンス向上を図る。

維持会員や正会員の増加を進め、2050年には会員2000人を目指し、若手研究者、女性研究者、支部会員、生産技術者等の育成、支援、連携強化し、学会の多様性を促進する。

[1]研究会、学術講演会等の開催(定款第4条第1項第1号)

1. 春秋大会の開催

1)第148回春期大会 (完全対面開催(一部ハイブリッド開催))

会期	:2025年5月16-18日		
会場	:北九州国際会議場		
実行委員長	:徳永辰也(九州工業大学)		
定時総会	:2025年5月16日	北九州国際会議場・メインホール	
研究発表講演	:2025年5月17-18日		
表彰式	:2025年5月16日		
レセプション	:2025年5月16日	北九州国際会議場 2階 Sea Lounge	
懇親会	:2025年5月17日	JR九州ステーションホテル小倉 5階 飛翔	
機器・カタログ展示	:2025年5月17-18日		
企業招待講演	:2025年5月17日		
男女共同参画セッション	:2025年5月17日	「未来の研究者たちへ ～博士進学で新たな境地をつかめ～ 企業編」	
市民フォーラム	:2025年5月16日	「国連も注視した！ 合併メガタウン北九州市誕生の秘話」	

2)第149回秋期大会 (ハイブリッド開催:現地講演発表、WEB視聴参加可能)

会期	:2025年11月7-9日		
会場	:横浜国立大学・常盤台キャンパス		
実行委員長	:廣澤渉一(横浜国立大学)		
研究発表講演	:2025年11月8-9日		
表彰式	:2025年11月7日		
レセプション	:2025年11月7日		
懇親会	:2025年11月8日		
機器・カタログ展示	:2025年11月8-9日		
企業招待講演	:2025年11月8日		
男女共同参画セッション	:2025年11月8日		
市民フォーラム	:2025年11月7日		

2. シンポジウム、セミナー、見学会等の開催

参加者の利便性を考え、オンライン、ハイブリッド式により、以下を開催する。軽金属基礎技術講座、軽金属セミナーは、現地対面開催を進め、講師と参加者が技術の意見交換を直接行うことで、コミュニケーションの強化と技術の理解力増強を図る。

- ・第136回シンポジウム「アルミニウム製品の生産効率化に寄与する機械学習の現状と今後」 (2025年10月予定)
- ・チタンシンポジウム (2025年10月予定)
- ・軽金属基礎技術講座「アルミニウムの製造技術」 (2025年11月20日～21日)
- ・第32回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—入門編(状態図と組織)」第15回 (2025年12月予定)
- ・第33回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—中級編(時効析出)」第14回 (2026年2月予定)
- ・第34回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—応用編(加工・熱処理による組織変化)」第12回 (2026年3月予定)
- ・中堅企業向けセミナー、講習会(支部単位で実施)

[2]国内外における研究協力・連携の推進(定款第4条第1項第2号)

1. 国際交流

1)ALMA2026(Asian Light Metals Association)

ALMA2026に向けたテーマ(環境、エネルギー)、参加国を検討し、日本、中国、韓国、台湾、オーストラリアから軽金属の学術研究・技術開発に関する動向や最近のトピックスを計画する。開催は2026年度秋期大会とし、フォーラムは従来のALMAセッションを設定するのではなく、各セッションにALMA講演を設定する計画とし、国際交流委員会と大会運営委員会の連携を強化し実現に向け推進する。

2)タイ技術講習会

2025年9月に開催すべく、関係者との協議中。2023年9月に開催した同講習会で実施した受講者アンケートを参考に、講義内容の見直しを検討し、ニーズに対応すべく、圧延(箔)、押出、鍛造、鋳造の生産技術を中心に接合や表面処理等の要素技術について日本から8件、タイから2件講義する。また、今回よりバンケットの開催を計画し、講師と受講者の交流を深めていく。

3)学会の国際化、国際連携、国際ワークショップ

国際ワークショップを計画し、海外の研究者と取り組んでいる共同研究の成果などを広く紹介すると共に関連分野の研究者とディスカッションする機会を創出し、軽金属に関連する国際連携活動の一助とする。

4)ICAA20

2026年9月13日～17日にベルリンで開催予定のICAA20の学会ホームページへの掲載、会員への案内と参加を促し、また、国際委員の参画により、国際交流を推進する。

2. 産学官の連携

参与会を見直し、開催テーマを明確化し、軽金属関連の研究・生産技術の意見交換を行う場を2025年度に開催し、工場見学および意見交換を2026年度に開催する。特に2026年度はユーザー側の協力を得て、株式会社竹中工務店様を訪問し、カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミーに向けた取り組みについての意見交換を行う予定である。産学官の密接な連携により、軽金属の将来に向け、国の計画を見据えた内容やユーザーとして軽金属材料の期待することの助言を得る会合とする。

3. 他学協会との連携

日本学術会議、材料連合協議会幹事会、材料戦略委員会、日本工学会等と連携を保つとともに、軽金属奨学会、日本金属学会、日本鋳造工学会、日本塑性加工学会、日本材料学会、日本鉄鋼協会、日本機械学会、日本アルミニウム協会、日本マグネシウム協会、日本チタン協会、日本チタン学会、軽金属溶接協会など、他学協会との講演発表、シンポジウムの共催、協賛などの協力を積極的に行う。

また、男女共同参画学協会連絡会の夏の学校に積極的に参画し、軽金属学会紹介パネル、軽金属製品展示、軽金属を利用した実験などを行う。

軽金属溶接協会とは溶接・接合関連の若手研究者奨励のため、春秋講演大会での優秀ポスター発表賞表彰を継続する。さらに異材接合委員会と2025年度より新設する異種金属接合研究部会と意見交換により、双方の強みを生かした研究・技術開発により、接合技術およびメカニズムを明確化していく。2021年度に軽金属奨学会の協力を得て始めた共同刊行誌Mater. Trans.のインパクトファクター向上を目的とした投稿助成事業を継続し、内外の著名な研究者の解説論文投稿勧誘を推進する。

[3]学会誌、学術図書等の刊行(定款第4条第1項第3号)

1. 会誌「軽金属」の刊行

2025年度は第75巻4-12号、第76巻1-3号までの12冊を刊行する。第74巻4号からスタートした「マグネシウム合金の基礎と応用」の連載講座は連載中で、第77巻1月以降まで計画している。一方、次の連載講座として「アルミニウムおよびアルミニウム合金の諸特性」を企画中で、タイトル、執筆者を選考し、適宜連載を開始すべく準備を進める。また、毎年9号ではミニ特集として「アルミニウムによる脱炭素化社会に向けた取り組み」を継続的に掲載する。

2. 研究部会報告書の刊行

2024年度に終了した2部会「マテリアルズ・インフォマティクス研究部会」、「6000系アルミニウム合金の相変態挙動研究部会」は2025年3月31日目標に成果報告書を刊行する。

3. 研究部会報告書、シンポジウム・セミナーテキスト、概要集の電子書籍刊行、研究部会報告書やテキストの無料閲覧

第135回秋期大会から開始した大会概要集の電子化を第148回春期大会、第149回秋期大会も継続する。また、ハイブリッド式で開催したシンポジウムやセミナーは、受講者アンケートの結果を参考に、適宜対面とハイブリッドの両面で対応する。ハイブリッド開催では会員の満足度向上のため音声状況を含め会場設備の改善を検討する。会員特典として、2023年6月から開始した研究部会報告書やシンポジウム・セミナーテキストなどの刊行物の学会HP会員マイページでの無料閲覧サービスを継続する。

[4]研究及び調査の実施(定款第4条第1項第4号)

研究委員会を中心に、他の常設部会と連携しながら、軽金属学会の研究活動を推進する。主たる活動計画は以下のとおり。

1. 研究部会

2025年度の研究部会は、2024年度完了予定であった研究部会「アルミニウム合金のひずみ速度感受性モデル化研究部会」を1年延長し、後継部会として新設する1部会「6000系アルミニウム合金の相変態挙動および材料物性に関する研究部会」、先行研究部会から研究部会を新設する4部会「アルミニウム産業の脱炭素に関する工学的かつ経済学的な計量計算研究部会」、「異種金属接合材の組織形成と信頼性に関する研究部会」、「水素貯蔵・輸送用アルミニウム合金研究部会」、「サーマルマネージメント材料技術研究部会」および既設11部会の、合計17部会で活動する。

	研究部会名	課 題
1 (509)	アルミニウム合金のひずみ速度感受性モデル化研究部会 【1年延長】	新しい測定法、精度を議論し、これまでのデータの見直し、新規データの取得を行うとともに、材料組織と力学特性との関係を明らかにし、成形や衝突のシミュレーション高精度化のため、ひずみ速度感受性に関する材料モデルおよびパラメータの適正化を目的とする。
2 (511)	7000系アルミニウム合金の時効硬化挙動研究部会	7000系アルミニウム合金の時効硬化挙動について、多角的な解析を行い、①時効初期の微視組織形成メカニズムの解明、②焼き入れ時の冷却速度と強度、組織、耐SCC性との関係解明、7000系バークハードプロセスの可能性を見出す。
3 (512)	アルミニウム板圧延におけるセンシング技術研究部会	製造コスト削減・省エネ活動や少子高齢化、人手不足対策として、属人性排除、省人化、設備・機械の自動化が急務である。アルミニウム板圧延におけるセンシング技術の現状と将来期待される姿について議論し、最終的には、デジタル技術を活用した圧延機・付帯設備のスマート化に繋げる。
4 (513)	アルミニウム溶湯による耐火物の劣化因子研究部会	アルミニウム溶湯と接する耐火物の特性は、炉の性能・寿命のみならず、溶湯品質にも影響を及ぼす。そこで、アルミナ-シリカ系耐火物劣化因子に関する理解を深め、当該分野の開発に係る新たな知見を蓄積し、溶湯品質の向上および耐火物の開発に繋がる知見を得る。
5 (514)	中・高温域におけるアルミ合金の変形解析の高精度化に関する研究部会	アルミニウム合金板材の引張曲げ変形での変形抵抗式を構築において、圧盤-試験片間の摩擦の影響や温度差による材料内部のひずみ・温度の分布などの影響を除くことが課題。これらの影響を軽減する新たな試験方法の開発もしくは解析における補正の方法について、詳細に検討する。
6 (601)	押出加工中の溶着制御技術検討研究部会	アルミニウム合金押出成形材は、特に溶着部の欠陥を予測し制御することが必要である。6000系および7000系合金を対象に、組織の違いにより生じる表面欠陥、機械的特性のばらつきに対して押出加工条件や工具形状で改善が図れるか否かの議論に用いることができる数値シミュレーションの開発を進める。用いる組織予測式の開発には、各種アルミニウム合金の組織変化の特性を把握する必要があるため、組織分析の実験も並行して進める。
7 (602)	アルミニウム合金中の水素評価研究部会	アルミニウム合金の特性向上に焦点を絞り、材料物性に及ぼす水素の影響を実験やシミュレーションから、高精度でかつ多角的に評価・解明する。アルミニウムに過飽和に固溶する原子状水素とそれが分子状水素として析出したポアやプリスターなどのマイクロ欠陥の生成、成長および消滅、およびそれらがアルミニウムの材料物性に及ぼす影響を調査し、水素やマイクロ欠陥制御による特性改善の可能性を議論する。
8 (603)	マグネシウムのためのマテリアルDX研究部会	マグネシウム合金開発へのマテリアルDX(データ科学を活用した研究開発の効率化・高速化と、これらを通じた研究開発環境の魅力向上)の適用可能性を検討する。マグネシウムの機械的特性、成形性、耐食性等を対象として、データ科学を専門としない研究者が利活用可能なマテリアルDX技術を創出する。
9 (604)	キンク研究部会	長周期積層構造型マグネシウム合金がキンク変形によって強化することが見出された。これまでの研究により、ミルフィーユ構造(MFS構造)は、Mg合金のみならずAl合金やTi合金においても形成される可能性が高いことが判明し、軽金属材料に革新をもたらすことが期待される。そこで、軽金属材料を中心にLPSO構造やMFS構造を持つ新物質の創製を試みるとともに、その構造とキンクの制御により高強度の軽金属材料の創成を試みる。
10 (605)	アルミニウム(合金)の不純物制御研究部会	サーキュラーエコノミーの実現に向けたアルミニウム合金のリサイクルでは、不純物元素の制御が不可欠である。さらに、不純物除去や不純物制御による許容量拡大が併せて必要になる。そこで本研究部会では、不純物増加に伴う材料特性への影響および改善方法について、晶出物等のマイクロ組織的要因と結びつけて明確化を目的とする。
11 (606)	アルミニウム屑の合金判別研究部会	アルミニウムにおけるスクラップ利用の課題は、アルミニウム以外の金属の混入やアルミニウム合金が混合されることによる不純物元素の増加であるため、スクラップ(固相状態)で適切な選別を行うことが必須である。そこで、簡便な合金判別のための基礎データを構築し、選別技術発展の礎を築くことを目的に活動を実施する。
12 (607)	アルミニウム溶解工程におけるMg,Fe低減技術研究部会	将来的なCNへの対応として市中スクラップの更なる利用要求が高まっているなか、市中スクラップを溶解したアルミニウム溶湯中ではMgやFe成分値が増加し、これに伴い製品の品質低下が懸念される。本研究部会では、アルミニウム溶解工程におけるMgとFeを除去する技術として、酸化物によるMgの除去と、B化によるFeの除去についてフラックスの有効利用法も含め、基礎的な検討と生産現場へ実装可能なプロセスを検討する。
13 (701)	6000系アルミニウム合金の相変態挙動および材料物性に関する研究部会 【後継部会】	二段時効の負の効果など工業的にも問題となる本系合金特有の諸現象についての共通理解を図り、その後、複数のクラスタを考える必要性や多くの種類の析出相が出現する理由、ナノクラスタの原子レベルでの形成挙動やB ²⁺ 相との関係性などについて、先進的な解析装置と広範な計算科学を組み合わせることで明らかにすることを目的とする。
14 (702)	アルミニウム産業の脱炭素に関する工学的かつ経済的な計量計算研究部会 【先行研究部会から部	アルミニウム産業の脱炭素に関し、アルミニウムの軽量性、リサイクル性、伝導性、加工性等を訴求していくことが必要であり、その基礎となる数値の計量手法の確立を目指す。2年間の先行研究部会での研究実績を進展させ、アルミニウムの材料としてのCO ₂ 負荷量(循環利用の効果を含む)及びアルミニウムの使用側でのCO ₂ 削減量への貢献に関し、学術(工学及び経済学)とともに実用の観点から、計量手法を確立する。また、計量の基礎となるアルミニウムのマテリアルフローの推計を精緻化する。この分野における国際的な議論をリードし、デファクト化を目指

	会化】	す。
15 (703)	異種金属接合材の組織形成と信頼性に関する研究部会【先行研究部会から部会化】	種々の先端接合技術を用いたアルミニウム/鋼接合材やアルミニウム/銅接合材の接合界面組織の観察・分析および特性評価試験を行い、組織と特性の関係を検討する。得られた結果を基に、異種金属接合材における接合信頼性を確保するために必要な組織形態を明らかにする。
16 (704)	水素貯蔵・輸送用アルミニウム合金研究部会【先行研究部会から部会化】	アルミニウム合金は、軽量性、優れた低温での機械的特性、耐水素脆化特性を有することから、水素貯蔵・輸送用材料として、一部使用され、今後の利用拡大が期待されている。しかし、これまでに使用実績のある合金は少なく、また特に高圧力下においては、使用が認められている合金は限られている。そこで、各用途における水素環境下での使用に適したアルミニウム合金を選定し、それら使用する上で必要な評価手法等について検討する。
17 (705)	サーマルマネージメント材料技術研究部会【先行研究部会から部会化】	生産技術系部会として、熱エネルギーに関わる様々な問題を取り扱うサーマルマネージメント材料と軽金属との関わりを明確化し、アルミニウムなどの軽金属材料の新用途開発への展開の足掛かりを明確化する。そのため、対象材料の選定、高熱伝導化、異方性の付与、機械的性質と熱伝導性の両立、界面熱伝達率の評価法の確立および学術的解析、金属材料や複合材料の組織制御、材料表面の形態などを重要課題とし活動する。

2. 先行研究部会

1年間活動期間を延長した先行研究部会(6部会)のうち4部会は、上記のとおり、研究部会として活動することとしたが、2部会は、部会設立をせずに完了とした。他方、2025年度は新たに1部会が先行研究部会として活動し、研究部会新設の検討を進めることとした。

	先行研究部会名	先行研究部会設立課題
1 (710)	熱処理合金における析出現象の初期過程先行研究部会	熱処理合金における等温熱処理の初期過程である析出物の核形成過程と析出核成長過程の解明のため、名古屋大学の電子顕微鏡とあいちシンクロtron光センターの放射光X線小角散乱を用いて等温下(<600°C)でのその場観察を行い、析出物核とその成長の時間変化の定性描写を通して過程解明を試みる。両手法の得失を補充し合い研究を進める。先行研究部会では、この手法が解明に有効か否かの判断を行い、有効であると判断できれば研究部会として活動する。

3. 日本アルミニウム協会とのロードマップ更新協業

2024年度は、日本アルミニウム協会「アルミニウム技術戦略ロードマップ2025」改訂に合わせて、軽金属学会「サイエンスロードマップ」の改訂要否を検討した。2025年度は、軽金属学会として、サイエンスロードマップや長期ビジョン・ロードマップを再検討し、環境変化に合わせた見直しを行うと同時に、学会活動の指針として一層の活用を図る。

[5] 研究の奨励及び研究業績の表彰(定款第4条第1項第5号)

1. 研究・業績の表彰

1)第28回軽金属学会賞、2)第27回軽金属学会功労賞、3)第23回軽金属功績賞、4)2025年度軽金属論文賞、5) 2025年度軽金属論文新人賞、6)第60回小山田記念賞、7)第48回高橋記念賞、8)第43回軽金属奨励賞、9)第24回軽金属躍進賞、10)第17回軽金属女性未来賞、11)2025年度軽金属希望の星賞、12)軽金属学会企業奨励賞の選考および表彰を行う。表彰式は、1)-3)は第148回春期大会の2025年5月16日(金)に、4)-10)を第149回秋期大会の2025年11月7日(金)に行う。11)は2026年3月上旬に盾賞状を各大学へ送付し、卒業式・修了式など相応しい時期に表彰する。12)も年度末に各支部にて行う。また、春秋大会において、それぞれ優秀ポスター発表賞、優秀英語ポスター発表賞の表彰を行う。

[6] その他、本学会の目的を達成するために必要な事業(定款第4条第1項第6号)

1. 人材育成

大学オープンキャンパスへの軽金属製品供与・貸与による啓蒙企画、軽金属科学実験室WEBサイトの実験事例拡充、担当教員・小中高生対象の工場見学会、大学生への維持会員企業採用情報を提供するWEBサイト(ライトメタルリクルート)運営、WEBサイトの研究室/研究機関紹介を実施していく。さらに、対象を小中学生まで拡大し、WEBサイトから情報発信する。若手研究者育成を目的に、研究および技術開発における意見交換を活発に行う体制を整え、軽金属分野の研究・技術者の人材育成を進めていく。さらに、学生を中心とした軽金属産業の見学会を計画し、実製造を直接体験することで製造業の理解を深める活動を行う。日本アルミニウム協会の協力のもと、維持会員企業のインターンシップ募集情報のWEB掲載を実施する。また、各支部においては講演会・ポスター発表(高校生も含む)など、若手人材育成に関わる事業を実施する。また、企業の生産技術者の表彰制度検討を行う。

2. 男女共同参画委員会(若手の会、女性会員の会)

春秋大会時に、若手の会、女性会員の会を継続開催し、若手の会では大会初日の午前に見学会を開催する。春秋大会時に男女共同参画セッションを継続開催し、軽金属学会の男女共同参画に寄与する啓発、普及活動を実施する。第148回春期大会では、第12回男女共同参画セッションにて「未来の研究者たちへ ～博士進学で新たな境地をつかめ～ 企業編」をテーマに博士課程(後期)のメリットや修了者に魅力のあると思われる企業や大学の在り方につきパネルディスカッション形式で行い、博士課程(後期)への進学に向けた意見交換を実施する。第149回大会でも継続し博士課程(後期)進学の魅力を伝えるべく、講演を企画する。また、第145回から懇親会への子供同伴を開始し、第146回ではノンアルコールエリアの設定を試行し、第147回より常設することで子育て中の若手研究者への親子同伴参加によりコミュニケーションの向上を図る。

3. 中堅企業R&D支援

中堅企業の技術開発を支援する「中堅企業R&D支援」を各支部中心に継続的に計画する。各支部にある公設試験研究機関の協力などにより、中堅企業との交流を深め、当会の認知度を高めるため、支部セミナー、企業見学会、WEB技術相談室、研修会、出前講座、HP質問コーナー、セミナーやシンポジウムを計画し、中堅企業に向け産学連携し、生産技術を取り入れた技術的な支援活動を進め、人材育成や課題解決のための活動を推進する。また、春秋講演大会においても、企業研究会・企業招待講演を実施し、二次加工、ユーザー企業と情報交換する。優れた製品開発、技術開発、高度な技術を持った中堅企業に対しては、支部から企業奨励賞表彰を推薦するなど、当会入会のメリットを最大限に生かした活動を推進する。

4. 支部活動

1)北海道支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合
2. 講演会等

- ①支部理事会、支部評議員会(5月にハイブリッドで予定)
- ①支部講演大会 2025年10月(札幌)
- ②講演会 随時
- ③他学協会支部講演大会等への協賛
 - ・日本鉄鋼協会・日本金属学会両北海道支部合同サマーセッション(7月)と講演大会(2026年1月)に協賛
 - ・工場見学会とセミナーの協賛
(一社)表面技術協会と(公社)腐食防食学会北海道支部主催、工場見学会と2025年北海道夏期セミナーに協賛
- ①若手育成支援事業
- ①軽金属希望の星賞一次選考、推薦
- ②学生優秀講演賞
- ①訪問活動継続

3. 人材育成
4. 表彰関係

5. 維持会員加入勧誘活動

2)東北支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合
2. 講演会等

- 役員会(2回)
- ①主催講演会(2回)
 - ②共催・後援行事(3回)

3. 人材育成
4. 表彰関係

- ①高橋記念賞推薦
- ②軽金属希望の星賞一次選考、推薦
- ③軽金属学会賞、軽金属学会功労賞推薦
- ①イブニングセミナー開催
- ②軽金属学会企業奨励賞推薦

5. 維持会員加入勧誘活動

3)関東支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合
2. 講演会等

- ①支部総会(1回)
- ②支部運営委員会(4回)
- ①第149回秋期大会(横浜国立大学・常盤台キャンパス)の実行援助
- ②工場見学会
- ①若手研究者講演発表会
- ①高橋記念賞推薦
- ②軽金属学会功労賞推薦
- ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦
- ①セミナーや訪問活動を継続

3. 人材育成
4. 表彰関係

5. 維持会員加入勧誘活動

4)北陸支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合
2. 講演会等

- ①定例幹事会(2回:4月、9月予定)
- ①春期講演会(6月20日 於 富山大学)
- ②秋期講演会(11月 ウィングウィング高岡予定)
- ①幹事研修会
- ②若手育成支援事業 6月予定
- ①高橋記念賞推薦
- ②軽金属学会功労賞推薦
- ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦

3. 人材育成
4. 表彰関係

5. 維持会員加入勧誘活動

5)東海支部

1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合
2. 講演会等

- ①総会
- ②理事会(3回、第1回は運営委員会と兼務)
- ①講演会(1回)
- ②研究部会(航空機材料部会)
- ③支部セミナー

- 3. 人材育成
 - ①若手ポスター発表会、
 - ②女性会員の会
 - ③中・高生向け工場見学会
 - ④ダイバーシティ推進委員会
- 4. 表彰関係
 - ①高橋記念賞推薦
 - ②軽金属希望の星賞一次選考、推薦
 - ③軽金属企業奨励賞推薦
- 5. 維持会員加入勧誘活動
 - ①TECH Biz2025:支部活動展示、講演会

6)関西支部

- 1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合
 - ①支部理事会(2回)
 - ②支部幹事会(2回)
- 2. 講演会等
 - ①支部シンポジウム
- 3. 人材育成
 - ①関西軽金属サマースクール
 - ②若手研究者・院生による研究発表会
 - ③大学院生フィールドワーク助成プログラム
- 4. 表彰関係
 - ①高橋記念賞推薦
 - ②軽金属学会功労賞推薦
 - ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦
 - ④軽金属企業奨励賞推薦
- 5. 維持会員加入勧誘活動
 - ①勧誘活動継続
 - ②出前講座

7)中国四国支部

- 1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合
 - ①役員会(2回)
- 2. 講演会等
 - ①第17回支部講演大会(香川大学)
 - ②研究会(3回)
- 3. 人材育成
 - ①若手フォーラム
 - ②高校生のポスター発表(岡山、徳島)
- 4. 表彰関係
 - ①高橋記念賞推薦
 - ②軽金属学会功労賞推薦
 - ③軽金属功績賞推薦
 - ④軽金属希望の星賞一次選考、推薦
 - ⑤支部賞(優秀講演賞、研究・開発奨励賞、技術賞、奨励賞)選考、授与
- 5. 維持会員加入勧誘活動
 - ①中堅企業R&D支援プログラム、講演会開催
 - ②訪問活動継続

8)九州支部

- 1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合
 - ①役員会(2回)
 - ②例会(2回)
 - ③第148回春期大会実行委員会(1回)
 - ④第148回春期大会
 - ⑤役員会・例会(3月 九州柳河精機)
- 2. 講演会等
 - ①合同学術講演会共催 5月北九州国際会議場
- 3. 人材育成
 - ①若手研究者支援セミナー
 - ②中堅企業支援支部セミナー
- 4. 表彰関係
 - ①高橋記念賞推薦
 - ②軽金属学会功労賞推薦
 - ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦
 - ④合同学術講演会表彰学生による招待講演
- 5. 維持会員加入勧誘活動
 - ①訪問活動継続
 - ②中堅企業支援支部セミナー